

平成24年度 宇都宮市立岡本北小学校学校評価書

「うつのみや学校マネジメントシステム」

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」の調和のとれた、心豊かな児童を育成する。

【具体目標】

「健康で明るい子ども」「よく考えて判断できる子ども」「思いやりのある子ども」「ねばり強く進んで実践する子ども」

【子どものスローガン】

つよく やさしく かしい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれる教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる学校」「自分の力を発揮できる楽しい学校」「地域から信頼される学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針

(1) 健康で明るい子どもを育てる。

- ア 自らあいさつをしたり発言したりする態度の育成
- イ 発達の段階に応じた基本的な生活習慣の定着
- ウ 食の大切さについての意識の高揚と日常的な運動量の確保
- エ 命の大切さを感じさせ豊かな感性を磨く指導や体験的活動の充実
- オ きまりの意義の理解促進と規範意識の高揚

(2) よく考えて判断できる子どもを育てる。

- ア 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得
- イ 主体的な言語活動の充実による、思考力、判断力、表現力の向上
- ウ 適度な家庭学習等とおとした、学ぶ習慣の定着と学習意欲の向上
- エ 教職員自身による心の変化の演示や、児童の心の状況の見取りなど、指導技量の向上
- オ 互いに授業を見合い切磋琢磨し考え合える教職員集団づくりの推進

(3) 思いやりのある子どもを育てる。

- ア 児童の言動等へのきめ細かな対応と、教職員自身の言動に関する意識の高揚
- イ 命の大切さを感じさせ、危険への予知能力や判断力を身に付けさせる指導の充実
- ウ 互いの意見や考えを尊重し合いながら切磋琢磨する雰囲気醸成
- エ 望ましい集団づくりの推進と、全校体制による、いじめ・不登校の予防、対応
- オ 弱い立場の児童の頑張り認め褒め合う雰囲気づくりの推進

(4) ねばり強く進んで実践する子どもを育てる。

- ア 深い児童理解と、一人一人のよさが生きる教育活動の推進等による自尊感情の高揚
- イ 児童自信が立てた目標を実現できる機会の充実
- ウ 自力で困難を克服する経験を積ませることなどによる挑戦意欲の高揚
- エ 創意工夫しながら課題を解決する機会の充実等による、主体的な対応力の向上
- オ 自分の将来を思い描いたり生き方について考えたりする機会の充実

(5) 開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める。

- ア 家庭や地域住民と相互に協力し合って児童の健全育成を図る雰囲気の醸成
- イ 広報活動の充実と学校の教育活動への理解促進
- ウ 地域の教育力を活用した教育活動の充実と地域の文化的中心としての役割の自覚
- エ 小中一貫教育の積極的な推進をはじめとした異校種との連携

4 今年度の重点目標

（学 校 運 営）○主体性に富み、自ら向上しようとする意欲に満ちた児童の育成

（児童生徒指導）○自他を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成

（健康・体力）○自ら考え、いきいきと運動に取り組む児童の育成 ー教科体育の充実と業間遊びの工夫による運動の日常化ー

（学 習 指 導）○基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

5 自己評価

(Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標)

(評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施)

(「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入)

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、活気があり、明るく活気がある」⇒保護者・地区住民の肯定的回答 80%以上	「つよく やさしく かしこい子」のスローガンの浸透を図り、児童会活動の充実など、活気のある学校づくりを進める。 学校生活を楽しく送れるように北小タイムや集会活動などにおける主体的な取組を重視し、その活性化を図る。	B B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.8%・地域住民 100%で、指標の 80%を上回った。 本年度は、「北小タイム(業間時)の集会」では各児童委員会による工夫ある活動が展開された。また、「児童会たより」の発行「校内ウオークラリー」の実施及び「児童会主催のあいさつ運動」が、年3回、設けられ活気ある活動が展開され成果がみられた。 【次年度の方針】 ・おおむね成果が見られたので、今後も継続する。楽しい集団活動を体験できる場を設定し、更にその充実を図る。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	児童一人一人の状況を的確に把握・評価するとともに、話をよく聞き、声をかけ、よさを認め伸ばす指導を繰り返す。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 98.1%で、指標の 80%を上回った。保護者・教職員の評価も昨年に比べ上回った。 言語活動の充実を図る授業を見せ合う取組を推進するとともに、業間や昼休みなど職員が児童と共に活動する機会が増えた。 【次年度の方針】 ・今後も、担任と少人数指導教員や児童指導担当者、特別支援教育コーディネーター、かがやきルーム指導員等が連携し、児童一人一人の理解に努める。
教育全体の状況	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】	「学習の約束」「生活の約束」を各教室に掲示する。約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、全職員・保護者が共通理解の下、指導に当たる。	A	【達成状況】 ・今年度の保護者の肯定的回答は 85.8%で前年度 72%を上回り、指標の 80%も上回った。 全職員体制で指導の徹底が図れる「正しい廊下の歩行」「清掃態度の徹底」に焦

況	全体のアンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答 75%以上	月に一度の生活指導部会で指導の重点を絞り、全職員で指導を繰り返す。	B	点化し指導の徹底をしたことや、「安全みまもり隊」などの児童会活動とタイアップし、児童に生活のきまりを意識させた活動を取り入れたことに効果がみられた。また、チャイムの回数を増やしたことで、学校生活にけじめができた。 【次年度の方針】 ・「正しい廊下の歩行」「清掃態度の徹底」を児童会活動とのタイアップをするなどして継続するとともに、けじめがつくように、チャイムを鳴らす回数を増やすことを検討する。
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方の授業は分かりやすくて、一人一人ていねいに教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 70%以上	学習の目標を明確にし、個に配慮した効果的な指導や支援体制をとりながら取り組む。 教職員の授業力を高めるため、学校課題で取り組む教科を絞り、深みのある研究にする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.9%，保護者は 80.6%で、指標を上回った。 授業をするときは児童にめあてを示し、意欲を持てる授業や分かる授業に力を入れてきた。また、国語と算数を中心に、児童の思考力や表現力を育てる手立てや言語活動を工夫してきた。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童が意欲を持つことができ、分かる授業を工夫していく。個人差が大きいので、個に配慮した指導の充実も図る。
	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	児童が主体的にしかも充実した学校生活を送れるよう学校行事や日課を適切に設定する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が 100%，保護者の肯定的回答が 94.6%で、指標の 80%を上回った。 昨年度と同様に夏季休業中に授業日を3日間設け、授業時数の確保に努め、余裕のある余剰時数を確保した。また、授業時数増については、児童の負担軽減を考慮した昨年度の日課を継続した。今年度も、登校・朝の読書タイム・朝の会の時間帯に余裕をもたせるようにした。 【次年度の方針】 ・次年度も夏季休業中の3日間を授業日とし、時数確保のために学校行事等の効果的運用の工夫を図る。

学 校 運 営 の 状 況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学年便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地区住民の肯定的回答 80%以上	学校・学年だよりや各種便りの定期的な発行と学校ホームページの定期的な発信に努めるとともに伝える内容の精選と見やすく分かりやすい表現について工夫する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 94.0%で、地域住民の肯定的回答は 100%で、指標の 80%を上回った。 学校だよりを月一回、保護者・自治会長へ配布し、地域回覧することを通して、学校経営の方針や学校行事等の紹介に努めた。また、今年度は学校ホームページの更新を定期的にするなどさらに内容を樹実し、分かりやすく発信してきた。 【次年度の方針】 ・「うつのみやオープンスクール（学校公開）」及び「地域住民との連携」について今後も継続する。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	地域人材や専門家派遣人材を活用した授業を各学年1回以上は実施する。 地域との連携事業(学校公開・地域協議会・安全対策連絡会・民生委員との情報交換等)を積極的に進める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.8%で、指標の 80%を上回った。 各学年とも多くの学習ボランティアに参加していただいた。更に、「放課後こども教室」活動への協力や出張授業・出前授業の充実を図った。 【次年度の方針】 ・今後も継続していく。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き学習しやすく潤いのある環境である。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	清掃の手順を明確にしたり学級活動で指導したりし、環境の美化に自主的に取り組める児童の育成に努めるよう、廊下・校庭等の環境整備を計画的に実施する。 また、ごみを落とさない、落ちているごみは拾うなどの指導をする。 清掃強化週間における働きかけや清掃コンクールの実施等をおして児童への清掃への意識を高める。	A B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.5%で指標 80%を上回った。 ・縦割り班による清掃で、異学年の児童が協力して活動に取り組めるよう指導を進めている。また、清掃強調週間・PTAの奉仕活動や業者によるトイレ清掃などの清掃活動にも力を入れてきた。年度末には、6年生の親子活動として学校の清掃を実施している。 【次年度の方針】 ・それぞれの清掃分担ごとに清掃の手順や反省会のやり方、必要な清掃用具を明確にするために、マニュアルを作成する。そのために、清掃係と学年代表などで、作成委員会を作り、具体的に話し合う。 ・清掃強調週間やPTA奉仕活動において児童の清掃への意識を高める。 ・担任と清掃分担の担当者が十分に連携をとりながら、異学年の児童が協力して清掃に取り組めるよう指導する。

学校運営の状況	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている〔全〕	学校課題への取組を日常の授業に継続的に生かし、学ぶ意欲や思考・判断力、表現力を高める。	B	【達成状況】 言語活動を通して思考力、判断力、表現力を育てるという課題をもち、日々の実践はもちろん、教員の指導力向上に努めてきた。取組は、授業参観や学校だより等で伝えたり、学校公開時に映像を2台のテレビに映して紹介したりした。
		学校公開日には言語活動の充実した授業を展開し、教員の指導力や授業力を正しく評価していただくようにする。 さらに、学校の取組をホームページや学校だよりで伝える。	B	【次年度の方針】 ・次年度も、研究授業などで互いの授業を見せ合い、成果や改善点を話し合ってさらに実践していくことにより、指導力を高めていく。
教育活動の状況	B1 人権尊重を基にした安全で明るく楽しい居がいのある学校づくりを目指す 【数値指標】 全体アンケートの「子どもの言動や様子から学校の楽しさが伝わってくる」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	児童の自己肯定感を高める教育活動を積極的に取り入れるとともに特別支援教育だよりや学年だより等で保護者への啓発等に取り組む。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.7%で、指標の 80%を上回った。 児童をほめたり認めたりする機会を多くすることで、自己肯定感が養われるように努めてきた。また、どの学級も1年に一度は道徳の授業を公開した。水曜のクラス遊びの時間などには、児童と教師の明るい笑顔が見られる。
	生 活 A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童はあいさつをしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	児童・保護者・地域・教職員が協力して互いにあいさつをする習慣づくりを目指す。特に教職員は、率先してあいさつを繰り返す。 児童会によるあいさつ運動や、あいさつコンテストなど、あいさつに自ら取り組めるような、機会を多く設定する。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 57.0%と指標を下回ったが、前年度より肯定的回答が若干増えた。(前年度は 53.6%) 児童の肯定的回答は 85.3%あり、保護者や教職員と児童との間に、あいさつに対する感じ方の差異が見られる。
				【次年度の方針】 ・児童会によるあいさつ運動や保護者にも協力して頂いた A1 グランプリを継続すると共に、古里中・白沢小・岡北小の

		望ましいあいさつや気持ちの良い言葉づかいを具体的に示し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもとでよりよい言語環境へ向けて指導していく。	A	3校でタイアップしたあいさつ運動を継続する。 ・保護者と児童があいさつに関して相互に考える機会を設ける。 ・あいさつ運動の様子が家庭や地域にもわかるように、継続して情報発信をする。 ・目上の人への言葉遣いについては、親近感があるのはよいが、けじめのある対応を教職員も継続して指導を行う。
	B2 学校のきまりを守り協力して活動している。 【数値指標】 全体アンケートの「北小の児童は、決まりやルールを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	生活指導部を中心に生活目標の掲示や重点目標の設定等を行い、全教職員が共通理解のもとに指導する。達成状況をクラス毎にふり返り、よりよい生活ができるように努める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は91.3%と指標を上回った。 【次年度の方針】 ・重点目標を児童が分かりやすく判断しやすいものに設定し、児童に達成感をもたせることで、規範意識を育てる。全職員で共通理解の下、学年間の情報交換しながらより効果的な指導を行えるように、生活当番を異学年の担任で構成する。
健康・体力	A11 好き嫌いなく給食を食べている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	学級懇談における話合いや給食だより等をとおして、食育に対する意識を高める。 さらに、食の大切さ・偏食の矯正について保護者への啓発を図る。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は66.8%であり、指標の80%を下回った。 ・朝ごはんを非常によく食べている反面、好き嫌いは多い。給食の残菜は特別多くはないが、少なくはない状態である。 ・お昼の校内放送で、毎日の食材・料理の紹介をしたり、給食週間で郷土色のしもつかれの紹介をしたりするなど、食に対する関心付けをすることができた。 【次年度の方針】 ・給食便り・保健便り等で引き続き啓発していく。 ・多種・多品目のメニューを出しており、家庭で食べられないものも多い可能性があるため、少しずつでも食べさせ、慣れさせていくようにする。
		給食の偏食の多い児童に対しては、個別指導を実施し、状況に応じた指導を充実する。	A	
	B3 自分の健康に関心を持ち心身の保持増進に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「食事のバランスや睡眠時間テレビやゲームの視聴時間など子どもの心身の望ましい生活習慣に心がけている」⇒保護者への肯定的回答 80%以上	学習や生活に悪影響を及ぼす歯や近視等の疾病の予防や治療に取り組めるよう保護者へ呼びかける。 養護教諭と担任とが連携を深め、機会を逃さずに指導するよう努める。	B B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は86.1%であり、指標の80%を上回った。 ・学習定着度調査のアンケート調査や、健康診断の結果などを見ると、非常に良い結果である。 【次年度の方針】 ・保健便りで引き続き啓発していく ・本校の児童は就寝時間だけが遅めなので、そちらもとりにあげていく。

教育活動の状況	学 習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	教科の特性に応じた指導の中にあっても、共通の「学習の約束」「話し方・聞き方」をもとに発達段階に応じた指導を全職員で継続して取り組む。 特に中学年以上の児童には、多くの教職員が指導に当たれるよう、担任・外教職員による授業や担任同士の授業交換等を進める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.2%で、指標の 80%を上回った。 - 基本的な学習のしかたを示した「学習の約束」をもとに、各学級が共通して取り組んでおり、効果が表れている。今年度は、話す・聞くについても力を入れてきた。 【次年度の方針】 ・話をよく聞き、落ち着いて学習することは基本であり、学力向上にも大いにつなげる。小中一貫教育が始まり、中学校との連携も深めていきたい。
	学 習	B4 基礎的・基本的な学力を確実に身に付ける。 【数値指標】 全体アンケートの「授業では、分かる楽しさやできた喜びが感じられる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	個に配慮した指導、習熟度別少人数指導、基礎・基本的内容の習熟の時間の教育課程への位置付けをしながら基礎基本の定着補充に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.1%で、指標の 80%を上回った。 - 基礎・基本を重視し、漢字や計算練習を繰り返したり、個に配慮した学習、3年生以上の算数では少人数指導を行ったしている。 【次年度の方針】 ・学習内容定着度調査の結果などから、児童が苦手な学習に力を入れる。また、規則正しい生活や家庭学習の習慣化も大切なので、家庭との連携に力を入れる。
本校の特色・課題等	B5	様々なふれあい活動を通し、心豊かな児童の育成に努める。 【数値指標】 全体アンケートの「外部の方との学習や縦割り班活動を協力して楽しく行えた。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	教科・特別活動等での高齢者・外部人材等のふれあい活動や異学年での縦割り班活動を積極的に行い、心で振り返る時間を設ける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%で指標の 80%を上回った。 - 生活科や総合的な学習の時間、家庭科、学級活動等での外部人材の活用、出前授業の実施等、各学年とも地域の力を活用できた。 - 校内ウオークラリー、清掃活動、校内なわとび大会練習及び大会等異学年との交流を重視した児童活動を効果的に実施できた。 【次年度の方針】 ・心の教育を推進するため、様々な体験活動や交流活動について、児童の目的意識を高める。

〔総合的な評価〕

（学校運営）「主体性に富み、自ら向上しようとする意欲に満ちた児童の育成」について

- ① 「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」「教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。」「日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている」などの評価指標は、今後もこの学校の取組を保護者や地域の方々にアピールすることで理解を得、信頼される学校づくりを目指す。また「学校と家庭・地域・企業等との連携・協力」については、今年度も、ホームページの更新や学校便り等で情報の発信を充実しており、その効果により数値目標を達成できているものと思われる。
- ② 「外部の方との学習や縦割り班活動を協力して楽しく行えた。」の評価指標は、児童の肯定的回答 80%を

上回っており、さらに異学年との交流を重視した児童会活動を効果的に実施していくこととする。

（児童生徒指導）「自他を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成」について

- ① 「元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている」の評価指標については、昨年度より若干増加している。学校でのあいさつに関する取組を継続するとともに、児童・保護者・教職員が「望ましいあいさつ」の共有を進め、地域・保護者・学校が協力し合って、「望ましいあいさつ」ができる子を育てていくように協力を図っていく。

（健康・体力）「自ら考えいきいきと運動に取り組む児童の育成」について

- ① 各種検定表の積極活用、宇都宮市の取り組みの「うつのみや元気っ子チャレンジ」、行事や休み時間の有効活用ができた。特に持久走大会、縄跳び大会の練習に目標を決めて取り組む姿勢が見られたので、今後も本校のよい伝統として継続して取り組ませたい。

（学習指導）基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成について

- ① 学習指導関係の指導指標については、今年度は児童、保護者ともにすべての質問で目標を上回った。基礎・基本の定着は毎年のように努力しており、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成も少しずつ成果が表れている。しかし、観点や学習領域によって努力が必要なものがあったり、個人差があたりするので、継続して努力を続けていく。

6 学校関係者評価

- ・あいさつについて、保護者アンケートの達成状況は目標に達していない。しかし、昨年に比べ3.4ポイント増加している。これは、「朝のあいさつ運動」の効果が表れつつあると思われる。学校内では、児童に安心感があるためか、よくあいさつをしてくれる。「時と場に応じたあいさつ」という表現は、児童にとって分かりにくいのではないかな。
- ・清掃については、親子ふれあい活動として清掃活動を取り入れ、6年生がたのもしく見えた。清掃については、児童と職員の認識にギャップがある。教職員はまだ「十分」ではないと考え、児童は、現在の清掃のやり方で「十分」と考えているのではないかな。
- ・アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」では、教職員の肯定的回答が95.6と高い割合を示している。しかし、児童は、84.1と教職員より11.5ポイント低い値であり、教員は児童がよく聞いていると思っているが、児童は必ずしもそうは思っていないという事実に驚いている。
- ・言葉遣いについて、目上の人と児童の近親感あるのは良いのですが、やはり保護者も指導者もけじめある教育を目指してほしい。朝のあいさつにしても「おはよう」でなく「おはようございます」と言う方が、児童はよくあいさつを返してくれる。
- ・項目によっては、毎日、様子を見ないと判断できない項目がある。項目について見直す必要がある。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 評価指数について、本年度は肯定的回答が各項目とも昨年度に比べ上回ってきている。しかし、個別には、昨年と比べ下回っているものがあり、再検討する必要がある。アンケート結果から、地域住民や保護者の率直な回答を十分尊重して、次年度の学校運営や教育活動の改善に役立てていく。
- 学校からのHPの更新・学校だより・学年だより等の情報発信を活性化し、児童の様子や教職員の取組などを地域住民や保護者に対し分かりやすく紹介してきたため、保護者・地域住民の評価が昨年に比べ上回った。今後更に充実していきたい。
- 地域住民や保護者との連携を有効に進め、「あいさつ運動」「気持ちよい言葉遣い」「清掃活動」等の推進については、地域協議会においても情報交換を行い、有効な手段を工夫していく。